

社団法人長崎県サッカー協会 設立趣意書

1 設立の趣意

サッカーは、世界中で最も愛されているスポーツのひとつであり、老若男女を問わず多くの人々が親しんでいます。2002年6月にアジアで初めて開催された FIFA ワールドカップ日韓大会では、日本中の多くの人々が高レベルのサッカーの魅力に直接触れ、大いに感動するとともに、日本という国を世界中に PR したことは記憶に新しいところです。

また、1993年にスタートした Jリーグは、企業スポーツという枠を超え、地域に根ざしたスポーツ文化の定着を図るため、その歩みを着実に進めております。ご承知のとおり、長崎県におきましても、昨年、念願の V ファーレン長崎が結成され、現在、地域とのつながりを深めながら、Jリーグ加盟という目標に向かって日々努力しているところであります。

近年、余暇時間の増大、少子高齢化の進展など、私たちを取り巻く社会環境が著しく変化する中で、健康を保持し、体力の増進を図り、生涯にわたって明るく、楽しく、豊かな生活を送るためには、サッカーをはじめとするスポーツの果たす役割は益々大きなものとなってきております。

そこで、私たち長崎県サッカー協会は、長崎県のサッカー界を統括し代表する団体として、本県におけるサッカー競技の普及発展と競技力の向上に努めながら、上部団体である財団法人日本サッカー協会の事業推進に協力するとともに、財団法人長崎県体育協会の一員として、本県のスポーツ文化の向上や県民の健全なる心身の発達に寄与することを目的として、協会の組織機構、財政基盤、実施事業の充実、強化を図るため、ここに社団法人長崎県サッカー協会を設立しようとするものであります。

2 設立申請に至るまでの経過

長崎県サッカー協会は、1948年に任意団体として発足以来、長崎県におけるサッカー競技の普及発展及び競技力の向上に資するとともに、サッカーを通じて県民の健康増進とスポーツの振興に寄与することを目的として様々な活動を実施してまいりました。

そのような中、前述のように、社会環境は急激に変化しており、当協会をはじめとして各スポーツ団体の果たすべき役割とその重要性は年々増してきております。しかし、法的人格を持たない任意団体である従前の長崎県サッカー協会の組織体制では、団体としての責任の所在を第三者に明確に示し、その役割を果たしていくことが難しくなりつつあります。

よって、当協会の諸活動をこれまで以上に積極的かつ確実・円滑に行い、サッカー界はもとより広く県民の期待に応えるために組織体制を強化し、さらには、会計の明確化、透明化を図ることが喫緊の課題であるとの認識の下、長崎県サッカー協会を法的人格を有する社団法人とすることに至りました。

平成18年3月

社団法人長崎県サッカー協会
設立代表者 小 嶺 忠 敏